

2 番 池 谷

一般質問通告書。受付番号第4号、質問議員2番、池谷仁宏。

件名、「未来を見据えた連携を」。

町行政では、過去から継続的に行われてきたことや、予定している計画に基づいて進められていること、さらには突発的に起こることなど、多種多様な業務が遂行されている。

いかなる状況であろうとも、町の将来を育んでいくに当たっては様々な分野における効果的な連携が求められると考え、以下の質問をする。

1、平成24年4月に神奈川県、川崎市、山北町の間で「水源地域における交流事業の実施に関する協定」が結ばれ、以降川崎市とは毎年水源地交流を行っており、このような交流は双方にとって大きな効果があると思われるが、川崎市との今後の在り方をどのように考えているのか。

2、令和9年度には（仮称）山北スマートインターチェンジの開通が予定されており、自治体と民間企業との関わりは今よりも重要性を増すと思われる中、スマートインターチェンジを効果的に活用するような企業を誘致し、連携を図っていくという考えはあるか。

3、本年1月1日に発生した能登半島地震も記憶に新しい中、8月8日には宮崎県沖で発生した地震による南海トラフ地震臨時情報が発表されるなど、災害に対しては常に注意が必要と思われるが、災害時における様々な事業者との連携はどうなっているのか。

以上。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、池谷仁宏議員から、「未来を見据えた連携を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の『平成24年4月に神奈川県、川崎市、山北町の間で「水源地域における交流事業の実施に関する協定」が結ばれ、以降川崎市とは毎年水源地交流を行っており、このような交流は双方にとって大きな効果があると思われるが、川崎市との今後の在り方をどのように考えているか』についてであります。川崎市との水源地域交流は平成22年11月に開催された第4回神奈川県地方分権改革推進会議において、当時の川崎市長から

県知事に対し、県内の町村との交流促進の要望が示されたことや、やまなみ五湖水源地域交流の里づくり計画に企業や政令指定都市等との協働による継続的な交流の仕組みづくりを重点的に取り組む施策として位置づけられ、3者による協定により始まりました。

この協定は、川崎市民の水源地域に対する理解の促進と水源地域の活性化を図ることを目的としており、これまで共和地区において、水源環境保全に関する体験活動や自然体験活動等を行ってまいりました。

今年度は3回実施の予定で、先月の8月20日には第1回目が開催され、芽継ぎ体験や竹細工作り、ヤマメのつかみ取りなど、共和地区と川崎市民の交流が行われました。

今後も都市住民の水源地域に対する理解が深まることにより、地域住民と連携して、森林の再生や水源地域の活性化に取り組むことが期待できますので、引き続き、この交流事業を推進してまいりたいと考えております。

また、この交流事業をきっかけとして、国産木材の利用促進・普及を図ることを目的に設置された川崎市木材利用促進フォーラムに、森林地域を多く持つ、いわゆる川上の会員として参画し、都市部の木材消費地である川崎市をはじめとする川下の会員とともに、情報共有や行政間連携の検討、民間事業者とのマッチングなどの研究を行っております。

さらに、本年6月には川崎市産業振興財団からの提案により、新川崎・創造のもりを視察し、本町の施策推進に興味を持つ数社の企業のプレゼンを受け、豊かな自然や伝統文化などの地域資源の活用について、新たな視点での充実した意見交換を行いました。

このように、川崎市との今後の在り方に関しましては、これまでの市民との交流をベースにしながら、本町の特徴が生かせる様々な分野において、民間事業者との連携や協働を図っていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「令和9年度には（仮称）山北スマートインターチェンジの開通が予定されており、自治体と民間企業との関わりは今よりも重要性が増すと思われる中、スマートインターチェンジを効果的に活用するような企業を誘致し、連携を図っていくという考えはあるか」についてであります。本町では、総合的な土地利用の方向性を定めた山北町土地利用計

画や、都市計画法に規定される法定計画として、都市計画やまちづくりを進めるための指針となる山北町都市計画マスタープランを策定し、その中で企業誘致を重要な施策の柱として位置づけ、取組を進めてきました。

これまでの企業誘致の実績といたしましては、都市計画区域内における工業系の用途地域に位置する平山工業団地や丸山地区へ、また、都市計画区域内における白地地域と都市計画区域外を合わせた特定地域には、町が県の了承を得て利用検討ゾーンを設定し、諸渕工業団地や原耕地地区への企業誘致を図りました。

本年度からスタートした山北町第6次総合計画の基本構想では、土地利用構想において、企業誘致を四つの施策展開の柱の一つとして位置づけ、具体的には令和7年度からスタートする山北町第4次土地利用計画の策定の中でも、土地利用の観点から検討しております。

令和9年度に新東名高速道路が全線開通し、（仮称）山北スマートインターチェンジが供用開始されることにより、首都圏から本町へのアクセス時間が短縮される等の利便性が向上し、新たな産業振興の創出や企業活動の活性化にとどまらず、町内未利用地の活用促進等が期待されております。

一方、地方自治体が抱える多種多様な課題を解決するためには、専門的な知識や技術を持った様々な民間企業との連携を図ることが必要であると言われており、本町においても同様の考え方を持っていることから、これまでのような土地利用の転換を図り、町内に進出された大きな企業との連携にこだわらず、本町に関係が深い様々な企業や交流自治体に所在する企業等との連携を積極的に進めていきたいと考えております。

次に、3点目の御質問の、「本年1月1日に発生した能登半島地震も記憶に新しい中、8月8日には宮崎県沖で発生した地震による南海トラフ地震臨時情報が発表されるなど、災害に対しては常に注意が必要と思われるが、災害時における様々な事業者との連携はどうなっているのか」についてですが、初めに8月8日に、日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、気象庁では初めて南海トラフ地震臨時情報を発表しました。立て続けに翌日9日には、神奈川県西部においてマグニチュード5.3の地震が発生し、南海トラフ地震との関係は否定されましたが、大地震への不安は増大したこ

と思われます。南海トラフ地震臨時情報は、1週間後の15日17時をもって特別な注意の呼びかけは終了されましたが、引き続き、防災への備えを再確認していただくよう、常に周知を図ってまいります。

さて、事業者との連携ですが、これまでも様々な企業や団体、地方公共団体などと人的・物質的支援をはじめ、施設や資機材の提供、交通輸送や情報伝達の支援など40もの応援協定を締結しております。さらに、現在、緊急時に一時滞在施設などを御提供いただける可能性のある町内企業との応援協定締結に向け、協議を継続しているところです。

また、それ以外にも、情報収集手段の確立や円滑な廃棄物処理における企業や団体とも協力検討を開始しており、町民の安全・安心向上に向けた連携の充実を順次図ってまいります。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 御答弁いただきましてありがとうございます。

やはり、川崎との関係性というのは非常に重要であるというような町長の御答弁だったかと思いますが、少し踏み込んでお話をさせていただきたいと思います。

今年、川崎は市制100周年を迎えました。この100周年の記念事業としての今回は山北町との水源地交流事業になっておりますが、年3回ですね。これを今後もう少し踏み込んだ形で、今町長の御答弁の中には、この交流事業を推進してまいりたい、引き続き推進していきたいということですけど、どんな形でやっていこうとお考えですか。

議 長 町長。

町 長 やはり、今までは水源地域の交流ということで、共和地区なりで自治会を中心として川崎の住民の方との交流をしていただいておりますけども、これからはやはり、例えば商工会であるとか、あるいは企業同士、あるいは様々な山北にある団体と、川崎市の同じような団体が交流できればいいんじゃないかなというふうに思っております。

ただ、規模があまりにも違うんで、組合せ等は非常に工夫が要るんじゃないかなというふうに思っておりますけども、基本的にはやはり山北が持っているもの、あるいは川崎が持っているものを有効的にお互いに使うことが、

情報交換ができれば、双方にとって非常にメリットがあるんじゃないかというふうに思っておりますんで、できるだけ今まで自治会とそういうようなことだけだったんですけど、山北町には例えば温泉組合もありますし様々な団体がございますんで、それらの団体とも交流ができればいいんじゃないかなというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 まさしく、自治会ですとかだけのつながりではなくて、地域同士のつながりだけではなくて、やはり商工会や企業といったところと連携をして、より関係性を構築していくということは非常に重要であると私も思います。

その中で、町長が6月に川崎産業振興財団からの提案によって企業のプレゼンを受けてきたということは非常に前向きな、町が前進するためには重要なことであると私は思っております。

その辺を踏まえた上で、事業と企業、事業とこの自然というつながりの中で、川崎市は今年市制100周年を迎えましたが、山北町と川崎市との歴史はとても古く、100年前には、浅野総一郎が社長を務めていた鶴見埋築社により落合発電所が建設され、大正6年に3月に発電が開始されました。ここでつくられた電気が今の京浜工業地帯の基となっているわけですね。この浅野総一郎さんは京浜工業地帯の川崎の産業の父と言われていて、今新紙幣にもなりました渋沢栄一さんとも非常に関係の深い親交のあった方だと伺っております。こうした100年前には電気を生み、産業をつくるための礎がこの町で生まれたということ、電気を生んだということ、そして今は水を生んだということの100年の歴史があるわけですね。

この点、町はどのように捉えているのか、お聞かせいただければと思います。

議 長 町長。

町 長 やはりそういった歴史的な事、また創出が相当、様々な人が行ったことが、今現在生きているものもあればうまくいかないで失敗したものもあるというふうには思いますけれども、川崎だけではございませんけれども、やはりそういったような山北と川崎との結びつきが100年前からあるということですから、そういったことがお互いの認識の中で共通の、何ていうんですか、

認識になればいいなというふうに思っています。

特に、共和にはお峰入りという文化のあれがありますし、そういったことが川崎の人にもうまく伝わる、あるいは興味を持っていただく、そういったようなことが大事ではないかというふうに思っておりますんで、我々が持っているものはなかなか自分ではそんなにいいものだと思ってなくて、普通の、川があったり水があったり富士山が見えたり、そういうようなことなんですけど、川崎から見たらやはりすばらしい自然があったり、すばらしい歴史があるということですから、そういったものがお互いに理解できれば、さらに密接にいろんな事業ができるんじゃないかというふうに思っておりますんで、ぜひ皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 まさしく我々が気がつかないところで非常にいいものがこの町にはあると。

今年の2月になるんですけれども、川崎市のほうに訪問させていただいたときに、市の職員ではなく議員さんがおっしゃっていた言葉なんですけれども、山北町ってとても羨ましい。これ何かといいますと、自然があって水があって文化財がある。こんなに可能性のある町ってないよねというようなお話をされていました。まさしく、その点を町長は今おっしゃっているんだと思います。

それを踏まえた上で、この活用を今後しっかりとしていかなければならないんですけれども、まずはこの水のつながりというところに着目をさせていただきますと、この山北町に隣接する道志村ですね、山梨県の。道志村は相模川水系の源であり、横浜市の水源になっております。明治30年から取水を始め、平成16年6月に横浜との友好交流協定が締結され、今年20年を迎えました。道志村には、横浜市水道局保有の水源林が多くありますが、この点を町はどう捉えているのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 今現在、たまたま道志村の長田さんとかと一緒に全国市町村会で隣同士で話ししてまして、また、御親戚も山北にかなりございます。そういう中で山北のこともよく御存じで、やはりこの水源を挟んで、歴史ももう本当に古くから道志とはございますんで、こういったような中で、当然水を介して交

流ができれば非常にいいのではないかなというふうに思っていますんで、ぜひ、どのような交流ができるか民間レベルも含めて、ぜひ皆さんで協議していただければ私のほうはそれについて、何ですか、長田さんのほうと協議していきたいというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 長田村長との協議をしていくということは非常にいい、これも連携につながると思うんですけれども、今年20周年を、横浜市と道志村のこの交流締結において20周年を迎えたということで、あるコメントの中に道志村は横浜市民ふるさと村として横浜市民の皆様が非常に多く訪れている。そして、横浜市側としては水源林の保全活動やキャンプ、小学生の相互訪問、小中学生の自然体験学習などを通じて、自然豊かな道志村は横浜市民ふるさと村として市民の皆様幅広く親しまれていると。

これはやはりさらに踏み込んだ、私は交流だと思うんですけれども、この点を町は、川崎と山北と何か先に進んで構築しようというお考えは何かあるようであれば、教えてもらえればと思います。

議 長 町長。

町 長 今のところ、特にこれといって具体的な案があるわけではございませんけれども、今現在川崎市さんとは頻繁に来ていただいたり行ったりしてやっておりますから、その中で今町の中で、この間産業系と交流を持たせていただいて、それについては一応町の中でも組織を立ち上げてありますんで、それらを含めたところで、これからどういうことができるか検討してまいりたいというふうに思っています。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 やはり、こうしたものの連携を図るということは、行政だけではなく地域もそうですし、事業者ですとか広く連携を図っていかなければならないと思います。

その上で、道志村は横浜市民の皆様に対して優待サービスなども行っているようなんですね。やはり、我々山北町が今後を見据えた中で、川崎とより強固な連携を構築していくにおいては、やはりこうした部分、商工業者ですとか、この辺との連携は、先ほども町長がおっしゃったように必要不可欠だ

と思います。

その辺も踏まえた上で、この水のつながりから、これはほかの自治体になるんですけども、福島県の浪江町と大阪府と大阪市は、再生可能エネルギーの活用を通じた連携協定を結んでいます。連携事項として、一つが再生可能エネルギーの創出・導入・利用拡大に関すること、二つ目に、脱炭素化の推進を通じた住民・地元企業主体の相互の地域活力の創出に関することがうたわれています。ちょうど6月の定例会におきまして、大野議員が一般質問において、Jクレジットの活用のお話をされました。まさしく、こうした取組も、川崎市と水を通じた連携のみならず進めていくということが非常に効果があると思うんですけども、水だけではなく、こうした今後想定される問題についても、川崎とは常に連携をしていこうと町は考えていると捉えてよろしいのでしょうか。

議
町

長
長

町長。

おっしゃるように、こういう方法だけとかということではございません。当然、今山北町にこういう水が豊富にある、その中で再生エネルギーで言えば小水力なんかは非常に効果的だというふうに思っていますし、または森林がかなりあるんでバイオとか、そういったものも非常に有効だというふうに思っています。

ただ、それを実現するだけのノウハウとかそういったものが完璧にございませんので、その辺を川崎市さんとかそういうところに御協力いただければできるのではないかなというふうに思っています。

それ以外にも、とにかく我々の何十倍も財政力から何からある自治体ですから、我々が知らないようなことも十分あるというふうに思っています。そういう意味では、本当にそれを見ても、これうちと関係あるのかなとか正直思っちゃいます。見に行ったときに、量子コンピューターの機械なんか見せてもらいましたけど、量子コンピューター、山北と関係ないだろうとかそんなふうに思っちゃうぐらいですから、本当に様々なものが大変多くありますので、我々は勉強しながら、それが双方にとっていいことであれば推進してまいりたいというふうに思っております。

議

長

池谷仁宏議員。

私も、川崎市産業振興財団のほうに足を運ばせていただいたことがございますので、量子コンピューターのことも少しかいつまんで話だけは伺っております。

ただ、町長自らが、やはり川崎、市の行政ではなく財団になりますけれども、足を運んで、この町の問題解決を図る上で必要な企業の創出、どういった企業があるのか、ベンチャーがあるのかということを確認しに行くということは非常に私は重要なことだと思っております。

その点も踏まえまして、川崎市は同じ神奈川県のある人口155万人、一般会計・特別会計・企業会計を含めて1兆5,903億円の予算のある非常に大きな政令指定都市です。はたまた、西の端という言葉は失礼かもしれませんが、西にあります山北町は9月1日の現在で9,109人、93億7,900万円の予算で人口・財政ともに大きな違いがあります。

しかしながら、どちらも同じ神奈川県にあるということ。そして、その中でも大きな共通点は水なんですね。我々は、この山北の山で生まれた水が酒匂川水系を通り、飯泉の取水堰から長沢浄水場のほうに行きまして、川崎の皆様提供されている。そうした中で、さらなる連携の構築においては、道志や横浜との連携よりも、私は越境より可能性が高いんじゃないかと思うんですね。

また、今後の脱炭素社会に向けて再生可能エネルギーを通じた連携も、先ほど話をしましたが重要になってくる。この点も踏まえて、川崎市に、この山北町に川崎市民の森を誘致するようなことを考えてはどうかと思うんですね。そこに、川崎市の小学生が学習に来て、町の自然に触れ、間伐体験や学習をしてもらう。そして、川崎の民間事業者と今までにない山の管理や活用も考えていく。また、ある程度、間伐等が進んでくれば、次は植樹ができるわけです。これにより水源林はしっかりと整備され、さらには100年以上維持できる水源地の森づくりができると想定されます。これは双方のウィン・ウィンの関係、これ、言葉がいいか分かりませんが、ウィン・ウィンの関係を築き、双方の自治体の強いつながりと理解がなければできません。

さらには、スマートインターチェンジ開通により、利便性も高まります。市民の森を誘致することができれば、関係人口の増加も想定されます。人口

減少に非常にこの町も、どちらかというと減少のほうに振れるほうが可能性が高いと思います。

そこに関係人口が増える可能性があり、なおかつ、増えるでしょう。その際には、セカンド町民ですとかセカンド市民という形も考えられると思います。

また、隣接する道志村は山北町とともに道志村は横浜の水源地です。山北町は川崎の水源地です。災害や供給等の観点から、双方の関係強化も今以上に図れると想像されます。以前から三保地域住民の要望でもある道路建設、これも県はやらないと言っておりますが、川崎の水源地を持つ山北町、横浜の水源地を持つ道志村、この二つがより連携することにより、また新たな視点での取組も可能になってくるのではないかと私は考えます。

町長いかがでしょう。川崎市民の森をこの町に持ってもらおうよう、川崎に投げかけていくというのは。

議
町

長
長

町長。

提案としては、私も1回、福田市長に言ってみようというふうには思いますけども、実際に川崎ではございませんけど山がない自治体、例えば災害時協定を結んでいる埼玉の三芳町なんかには、何度かそう、いいよ、使ってくれよと、構わないからと、協定しましょうよというような話はしているんですけど、実際にはなかなか難しいなという、ハードルが、横浜の場合に道志は完全に横浜市が買い取るみたいな形で入っておりますから、当然そういう中では議会承認を得て、また、予算をそれなりに突っ込んで管理もするというものですから、そういうようなことで川崎さんが山北町を買っていただかなくてもいいんですけど、ちゃんと管理していただいただくというような、そういうようなことが果たしてできるのかどうか、その辺は私も1回話はしてみようというふうには思いますけども、かなりハードルが高いのではないかなというふうに思っています。

今現在、私のほうは品川区さんとの中で、森林を生かした森の学校のようなものができないかということで投げかけておりますけども、これもやはり行政だけがやるわけにはまいりませんので、民間が入っていただかないとなかなか前へ進まないというふうに思いますんで、やはりそういった今山北町

が関係している自治体がかなりありますんで、それらと一緒に山北町とウィン・ウィンの関係になるような、そんなようなことを進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 町長の今の前向きな、一度話をしてみようということで、非常に町にとってもそれがしっかりと前進していけば、一番は前進していくことを望むとともに、一番はこれから人口がどんどん減る中で、どうやって山北町という自治体を維持していくのか、これが未来における非常に強い連携が必要であると私は捉えています。

先ほど町長が、道志村の周りの森が横浜の市有林になります。私は川崎市に対して一番いいと思うのは、山北町の一番は私は三保地区がいいと思うんですけども、その山を一部を川崎市民の森として使ってください。年間、毎年委託管理費として入れてください。私たちの町でその森林を管理しましょう。川崎市のほうは、これ、川崎が決めることですが、森林環境譲与税、これは学習に使えるわけなので、子どもたちをぜひこちらに連れてきて、学習していただいて、水源に対しての造詣を深めてもらう。そして、最後は植樹をしていくということで、本来我々が持つ問題解決にもつながってくるということなんです。

ぜひ、町長には強く、川崎のほうにその辺をお願いしていただきたいと思っていますけれども、再度町長、その辺に関して意気込みなどがありましたら、お聞かせいただければと思います。

議 長 町長。

町 長 今現在、川崎市さんとはそういう意味では水源交流を通じてやっておりますけれども、今国のほうの森林譲与税、これに対して今年からお一人1,000円徴収するというようなことで国のほうで決まっていますけれども、それについて当然、今まで神奈川県がやっている水源環境税を存続させるかどうかというのが非常に議論が分かれるところですけど、我々は続けてほしいということで、町村会では1本になりましたし、市長会のほうも同意してくれましたけれども、最後までなかなか難しかったのは川崎市と横浜市ですから、そういう意味も含めてなかなか単純にいかないところがあるというふうに思い

ますんで、その辺のところはお互いに胸襟を開いて、川崎市と相談して検討していきたいというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 ぜひ、前向きに強く、これをするによって間違いなく未来に対しての町の問題解決と、そして憂い、またこれからの世代に対しても一つずつ問題解決につながると私は思っておりますので、引き続き、町長の動きに期待をいたします。

二つ目の質問に移らせていただきます。

(仮称)山北スマートインターチェンジの開通が予定されているという点の質問ですけれども、今御答弁をいただいた中で、交流自治体に所在する企業等との連携を積極的に進めていきたいと考えていると。もう少し踏み込んで説明をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 私のほうは、少なくともスマートインターが令和9年度に完成したときには、今のインターの近くの土地利用、あるいはそういったものについて、やはり町だけではなかなか解決できない。要するに、一般企業は入っていただかないとどうしても無理だというふうに思っております。いろいろな発展したほかの自治体を見ても、行政だけで発展したところはどこにもございません。やはり行政が下支えをしてインフラ等を行って、それに対して民間企業は入っていった事業を進めていくことが町なり地域が発展することだというふうに思っておりますんで、そういう意味では、ぜひともいろんな企業が山北町に来たくなるような、また事業を新しく始めたいと思うような、そんなような魅力があるようなことにしていきたいというふうに思っておりますんで、ぜひとも、特定のところではなくていろいろな企業に山北町を見ていただいて、また来ていただければ大変ありがたいというふうに思っています。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 まさしく法人税も税収が減る中、事業者や企業の誘致というのは非常に大きな問題でもあり、やはり町の財政を担っていく上でも非常に効果的なものであると私は思います。

この誘致を図るにおいて、土地を整備するということももちろん重要でも

あり、その分、時間もお金もかかってくる。私12月の一般質問の際に、空き家を活用して新規事業者をどんどん誘致を考えてみてはどうだろうという話をしました。スマートインターチェンジができるということは、周辺の開発のみならず町全域においても交通の便がよくなると想定されます。こうした空き家を活用して、新規事業者、新しくチャレンジをしてみたいというような方たちを呼び込むということも私は非常に効果があると思いますが、その点は町はどうお考えでしょうか。

議
町

長
長

町長。

おっしゃるとおりだというふうに思っています。私もスマートインターができるまでに、何とかそういったような空き家を活用したことができないかと。現実にもう既にやってくださっているところもございます。私が聞いたところでは、何かサウナか何かやっているというようなところもあるというふうに聞いていますんで、そういう意味では、やはり山北町で人口が少なくなつて空き家があるということはかなり事実でございますし、そういったところができればいいかなというふうに思っていますけども、その中でもやはり最初の取っつきとして、いきなり空き家を買って事業化ができるという人はいないというふうに思いますんで、やはり山北町へ来ていただいて、そしてそこでみんないろいろな企業なり地域の人たちと話し合いができるような、そういう場所がまず最初必要かなというふうに思っていますんで、ぜひそういった場所をまずつくって、そしてそこで話し合いをしていただいて、それから次のステップとして空き家とかそういったものを活用していただく、あるいは事業計画を出していただくような、そんなようなことができればいいかなというふうに思っております。

議

長

池谷仁宏議員。

2 番 池 谷

まさしく、そうした総合的に広く目線を捉えて、この町の問題解決につながる、また、財政も多少なりともよくなるような形を構築していくことが重要であろうと思います。

昨年の10月に私の所属します総務環境常任委員会で、群馬県神流町のスマートインターチェンジの活用と周辺の開発について視察をさせていただきました。これは、吉井インターチェンジと富岡インターチェンジの間の、もと

もとは地元企業の利便性を図ることと地元施設へのさらなる誘客を図ること、それと抜け道、これに対して、ここにスマートインターチェンジを造りたいんだという要望を国に出していったというふうに伺いました。

(仮称) 山北スマートインターチェンジはそうした関連性からではなく、全く新しい第二東名という新設道路に造られるインターチェンジになります。これは非常に課題も、これから先見通しもなかなか見えない中でも、課題も非常に大きいと思います。

そうした視点から、新しい道路であるという点での取組・視点というのは、町としてはどういうふうな位置づけで見ているのでしょうか。ちょっと質問が曖昧過ぎるかもしれないんですけども、この新設道路にできるスマートインターチェンジ、これを活用していくというのはなかなか例がないと思うので、その点を町はどう捉えているのか、お聞かせください。

議
町

長
長

町長。

今まで旧東名もございましたけど、インターがなかったと。しかも、サービスエリアが一つだけ、鮎沢があるというだけで、10キロ以上ある中でインターがないというので、今回新東名についてはスマートインターですけども一応インターを造っていただくというところで、ハーフインターですけどもできるというところで、これは非常に画期的なことだというふうに捉えております。そして、おそらく旧東名でもいろいろな事例があるんでしょうけども、この山間部で今までなかったところにインターを持ってくるというのは、非常にほかのインターにはない魅力があるんだろうと私は思っております。

ただ、なぜなかったのかというと、もちろん造るのが難しかった、あるいはまた造った後、その効果があまりないんじゃないかというようなことで、実際には、前の東名のときにはインターが造られなかったというふうに思いますけれども、しかし時代がこういうふうな時代になって、こういうところにもやはり必要だという中で、国のほうで連結許可をいただいて、スマートインターが令和9年にできる。

そうすると、そういう今までにないインターですんで、その特徴をどういうふうに皆さんに知っていただくか、またどういうような特徴があるか。そういうことをやはり伝えて、リピーターを増やさなければいけないだろう

と。何回でも来ていただく。実際に今山北で、山北が好きだと言って来ていただく方は、ほとんどリピーターなんですね。何ていうんですか、我々から見てどこがいいんだろうなと思うようなところですけど、実際に皆さんいいところだ、いいところだと言ってリピーターの方が来ていただく。そういうようなことと同じように、やっぱり新しいインターができれば、そういったような取組をしていきたいと。もう完全に、極端なこと言えば、最初は一見さんでしょうけど、おなじみさんというか、リピーターをどういうふう to 確保していくかということがこれからは一番大事なことはないかなと。

一番懸念しているのは、とにかく中日本から言われるのは、当初計画段階で1日1,300台、そして、秦野伊勢原の開通したところを見ると大体3倍から5倍というふうに聞いています。そうすると、土日は4,000から5,000の車が来ることはまずしばらくは間違いないというふうに思っています。それが来たときに、もういいやと。1回来たからいいやというふうになるんじゃないかと、いいところだからまた来ようというふうに思っていたくような施設なり取組をしないと、なかなかリピーターにはなっていただけないと。実際、今のところ、埼玉とかなんかにある道の駅が東京ドームの何倍もあって、1日楽しめるようなそんなようなところがあるわけです。ですから、ああいう方向は無理だと思うんですね、山北町では。ですから、もっとコンパクトでも、あるいは1か所じゃなくて少しく飛んでいるけれども、そこを回ったりいろいろなことができるんじゃないかなというふうに思いますんで、これからは正直言って知恵比べだというふうに思いますんで、今までにないインターの周りの開発を日本で初めてというふうなつもりで考えなければいけないだろうというふうに思っていますんで、ぜひこれからも御協力をよろしくお願いいたします。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 まさしく、実は私、この一般質問通告書を作りまして、スマートインターチェンジ周辺の企業誘致をすべきであろうというふうに、もちろん、これ重要なことなんですけれども、先週、ある上場企業の役員に会ってきました。ちょうど神流のスマートインターチェンジ付近に新工場を設立する上場企業さんで、多岐にわたる事業展開をしておりますので、実は福島ですとか、ほ

かにも工場なり発電所なりを持っている企業です。この企業さんの話の中で、工場を誘致する際に、幾つかの自治体は4年から5年、固定資産税の免除や償却資産税の免除の対応をしているよということでした。そして、一番が企業さんにおいて、企業において一番今苦慮していることは人材の確保であると。この人材の確保に対してきちっとした家屋、住宅地等を提供してくれる自治体は非常にポイントが高いよねということです。本当に東証の上場企業なので非常に大きな会社さんなんですけれども、その企業の話の中で上がったことが、山北町は企業誘致よりも、もともとあるものをどう活性化につなげていくかを考えていくほうが得策であると。なおかつ、山北町の持っている特産物をしっかりと外に発信できるような、そういう活用のスマートインターにすることが一番いいんじゃないかというような話をされていました。

まさしく今町長がおっしゃっていたことはそういうことなのかなと思うんですけども、その点はそういう解釈でよろしいでしょうか。

議
町

長
長

町長。

おっしゃるようにそういうようなことです。現実には、今企業誘致で大きな企業を誘致しようと思うと、山北町ではあそこの隙間のあの辺ぐらいの規模でないとなかなか大きな土地がございません。ですから、小さなところだと難しいというところなんです。今の大きな企業が何を求めているかという水です。もう徹底的に洗ったりなんか、半導体とかも含めて、半導体じゃなくても大量の水が必要だと。ですから熊本行ったり、東北のほうへ水のいっぱいあるところへ行っているというようなところなんです。ですから、水はあるんですけども、それだけの企業に使えるような土地が小さな土地しかございませんので、なかなかそれは難しいだろうと。

そうすると、池谷議員がおっしゃったように、山北には今既にあるものをどういうふうに皆さんに知っていただいて、また役立てていただくか、あるいは買っていただくかというようなことになるんじゃないかなというふうに思っています。私としては、今までは山北にあるものを買っていただくという発想が多かったんですけど、今は使っていただくというような、売るのではなくて体験していただく、あるいは使っていただく、森林もそうですね。あるいは、いろいろなものも山北町にはたくさんございます。それで体験し

ていただくなり使っていただくなり食べていただくということもあるかもしれませんが、そういうような発想を強く持たないと、物を買っていただくというのももちろん大事なことですけど、それにあまり特化するとやはり難しいんじゃないかというふうに思っていますんで、買っていただくのをやめるわけじゃございませんけども、ぜひともそういう発想をしていかなければいけないなというふうに思っています。

この間ユーチューブで見ましたら、道の駅がやっていました。何か天井か何かが映って出まして、それでその中にヤマメだか何かの天ぷら入っていて、これおいしいんだということで人気だというふうに聞きました。

そういうような、つまり我々から見たらあっても不思議じゃないなということが観光客の方とかユーチューブを見ている方が非常に関心が高いと。山北の山もいっぱいユーチューブでやっていますし、様々なところで見られていますんで、そういったような皆さんがいいと思ってくれるようなことを伸ばしていくしかないだろうというふうに思っていますんで、ぜひ皆さんでいろいろな提案をいただければ、検討してまいりたいと思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 まさしく、町長のおっしゃるとおり、この町の特色をしっかりと生かしたスマートインターチェンジの活用というふうなことを中心に進めていくことが私も一番重要だろうと思います。

この企業さんをお伺いさせていただいた際に、例えば綾瀬のスマートインターチェンジ、また今後伊勢原にもできるようなんですけれども、この開発をゼネコンと言われている企業に任せると大体倉庫になっちゃうよというような話もされていたので、そうではなく、町の特色を生かすスマートインターチェンジということで基礎をつくり展開していくことが重要だろうと思います。

では、三つ目の質問に移らせていただきます。

昨今地震もまた頻発してきました。台風や豪雨もまだまだ収束しない中ではありますけれども、災害時における様々な事業者との連携ということで以前も私質問をさせていただきました。山北町地域防災計画の中に町民等の責務（役割）に、その中に、企業の項目で幾つかございますけれども、この点

の周知というのは企業のほうにはされているのでしょうか。

議 長 地域防災課長。

地 域 防 災 課 長 そこら辺の周知につきましては、この地域防災計画作成時にちょっとしたパブコメとかそういった部分でやっておりますが、内容についてはちょっと事細かくなってしまうので、積極的には今周知はしていない状況です。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 やはり、パブリックコメントをいただく中でこのような防災計画が策定されておりますので、企業等を訪問しながらお時間あるときで構わないと思うんですけども、ぜひこれに対して協力を促していくということが重要であろうと思います。

その点から、企業訪問をして促していくというような取組をしようということとは考えているのでしょうか。

議 長 地域防災課長。

地 域 防 災 課 長 今のところちょっとありがたいことに、企業さん側からもこういったことをやらないかというような御提案をいただいて今協議を続けている状況でもあります。

また、それ以外にも今2社ほどからお話をいただいているところで、そういった対応をさせていただいておりますので、今後の参考とさせていただければというふうに考えております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 御答弁ありがとうございます。お時間もやってまいりましたので最後にさせていただきますと思いますが、今まさに幾つか質問をさせていただいた内容というのは、一つのことができれば解決することが非常に多いわけですね。スマートインターチェンジの活用もそうです。リピーターという点でもそうです。川崎市民の森を持ってもらう。これがあることによって、町の問題解決や今後のセカンド、すみません、関係人口の増加、いろんなことに対処できると私は考えます。

そうした点で、なお一層の活性化を、川崎市との連携を図り活性化をする上で、再度町長に、川崎市とこれはもうきちっとやろうというような、やりますというような発言はいただけませんか。

議 町 長 町長。

町 長 災害時とかそういうときに応援協定というのは今8つぐらいのところとやらせていただいています。

その中でやはり一番大きいのは、品川区さん。もし川崎市さんということになると、川崎市さんのほうがはるかに大きいというふうになります。我々としては当然やっていただければ、ものすごい安全、安心・安全なんですけど、先方のほうにどの程度のメリットがあるのか、相互応援ですから向こうから受けれる分だけこちらがお返しできるかどうかというのがありますんで、そういうところではなかなか実際に名古屋の市長が来たときもそういう話をしましたけど、あまりにも規模が違い過ぎるんで、なかなかそのところが難しいのかなとは思いますが、でも言うだけは言ってみようかなというふうには思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 言うだけは言ってみるということが私は非常に重要だと思います。

本当に、先ほど来お話がございましたけれども、川崎市になくて私たちの町にあるもの、これはもう不動のものであって、自然であり水であり、そして文化財です。これは胸を張れる私たち町の財産です。そして、この川崎市は同じ神奈川県の中にあるわけです。政令指定都市であります川崎市と、本当に人口減少、財政的にも非常に厳しいこの山北町が共に手を結ぶことによって、この日本の縮図である神奈川県が政令指定都市と町が手を結んで新しい動きが生まれたよということが僕は非常に重要なことだと思うんですね。これを見せることが多分日本にある各自治体の今後についてもいいモデルになってくると思います。

町にはぜひ、これを全力で進めていただくことを期待しまして、質問を終わらせてもらいます。